

郡山市制90年

市制施行九十周年を迎えた郡山市の品川萬里市長は、新しい安全で安心なまちづくりを宣言した。世界保健機関(WHO)「地域安全推進協働センター」の「セーフコミュニティ」の県内初認証を目指す。従来の防犯だけでなく、不慮の事故や自殺など対象は幅広い。住みやすい都市機能は人口増の鍵を握る。

安全安心への挑戦

セーフコミュニティは、体や心の「けが」は予防できるという理念の下、スウェーデンで始まった。日本でも広まり、国内では京都府亀岡市など九カ所が認証を受けている。品川市長は本紙のインタビューで、世界中の人々が安心して訪れる市にするため、国際基準で取り組む必要がある、と、との考えを示している。

認証取得には、子どもの安全、高齢者の転倒事故、誤嚥の防止、さらに自殺の予防など取り組むべき問題は数多い。郡山市の場合、平成二十一年から四年間で自殺者は三百十六人にも上っている。何故原因か、その対策は。と、

住民参加の推進協議会を設けるほか、事故などの分野ごとの対策委員会で有効策を練る。二十九年度中の認証取得を目標としているが、市は事故減少率などの目標値は設定しない方針だ。市民総ぐるみで安全意識の高揚を図る。三十二年の東京五輪を前に安全

して亡くなる震災(原発事故)関連死も増え続けている。山市民が安全・安心の意識高めただけでは不十分という。避難者への自配りも事になる。関係自治体との携も喫緊の課題だ。

市は昭和四十年に安積郡町村と田村郡三町村を合併した。成長を続け、平成九年東北初の中核市に移行し、十年に「音楽都市」を宣言した。ビッグパレットふくしのコンベンション機能も充している。今年も各種団体全国大会が開催されるなど交流の拠点地域として今後発展可能性を秘める。新しい都市づくりへの挑戦は安積拓の精神にも通じる。大いに注目したい。(佐藤 光俊)

日大工学部 福島未来国際プロジェクト  
**道路除染装置を開発**

汚染水再利用で効率化



汚染水を再利用する路面洗浄装置

郡山市の日大工学部「エクト」は、除染作業と、民間企業でつくる「福島未来国際プロジェクト」の路面除染装置を共同

で開発し、十四日、本宮市高木のもとみや台団地で実証実験を行った。

本宮で実証実験

日大工学部と本宮市が締結している包括連携協定に基づく事業の一環。これまでに開発した「側溝汚泥回収洗浄システム」にも改良を加え、道路と側溝の除染作業を通して装置の性能を確認した。

を洗浄する過程で発生する汚染水をその場で回収し、汚泥を取り除くことができる。水をリサイクルして使用することにより、汚染水の運び出しにかかる手間やコストが省かれる。洗浄システムは、作業員が手を触れずに側溝のふたを脱着する装置を改良し、作業の安全性を確保した。

実験に立ち会った高松義行本宮市長は「効果的でスピーディーな除染ができるよう、市も新しい技術を積極的に活用していきたい」と話した。

郡山の産総 日大工学部 関東商議所 関東商工会議 会は十四日、一 主要視察一と 郡山市の日大工 産業技術総合 (産総研) 福島 産総研) 福島 産業研究施設 する郡山市の魅 信しよう郡山

県内企 廃炉・除 県技術 県廃炉・ 除染ロボッ ト技術研究 会は、県内

汚染状況重点調査地域

二三島町、17日解除

県内2例目

同二十九日まで、空間放射線量を測定した。平均で指定基準の毎時〇・二三Bqを下回ったため、解除

は指定解除の意義について「風評の払拭(ふっしょく)につながる」としている。

県内